

民生委員・児童委員の活動を発信!!

Well ウエル おおさか

32
2015.2

特集 民生委員・児童委員が
活動しやすくなるために

新企画“読者プレゼント”

◎イキイキ ハツラツ
民生委員・児童委員さん
能勢町民生委員児童委員協議会

民児協だより

能勢町民児協 / 交野市民児協
太子町民児協 / 岬町民児協



民生委員・児童委員が活動しやすくなるために

特集

地域の福祉課題が多様化・深刻化する中、国では、平成27年度からの生活困窮者自立支援制度や子ども子育て支援新システム、改正介護保険制度等の本格実施に向け、取組みが進められています。民生委員・児童委員への期待もますます高まっており、地域で活動しやすい環境整備のための取組みが求められています。

今回は、泉佐野市民児協、摂津市民児協、豊中市民児協連の取組みを紹介します。

担い手不足 解消へむけ 方向性提示

泉佐野市民児協

地域をとりまく情勢の多様化にともない、災害時避難行動要支援者支援への取組みや新たな生活困窮者自立支援制度等における民生委員・児童委員への期待が高まっています。そのような中本市では165名の定数のうち7名が欠員となっており、民生委員の担い手不足が深刻化しています(平成26年12月1日現在。府内(大阪市、堺市除く)定数8,281名、欠員268名)。

そこで、平成26年6月に泉佐野市地域福祉計画策定審議会において、民生委員の担い手不足を解消し、活動しやすい環境を整備するために「民生委員児童委員及び民生委員児童委員協議会活動のあり方検討会」を立ち上げました。4回にわたり検討を重ね、9月に報告書としてまとめられました。

昨年12月の二斉改選前に市内の全民生委員を対象に行ったアンケート調査や、第1回検討会で全民生委員参加により行ったワークショップでの意見をもとに課題を整理。今後求められる民生委員および民児協活動のあり方を8つの視点からまとめ、すぐ実行する項目、中長期で段階的に進めていく項目に分けてロードマップで表示され、市、市社協、市民児協が協働して取り組んでいくという方向性が確認されました。今後、市民児協では「推進委員会」を立ち上げ、取組みを進める予定です。



検討会には、学識経験者や市、市社協、府社協のほか、市民児協正副会長が委員として加わりました。

今後求められる民生委員および民児協活動のあり方の方向性

- ① 負担感の軽減、活動範囲・役割の明確化
- ② 活動への支援・協力体制
- ③ 正副会長等執行部の機能強化
- ④ 研修のあり方
- ⑤ 社会的な理解の促進と継続性の確保
- ⑥ 担い手の確保、委嘱・推薦のあり方
- ⑦ 災害時の活動
- ⑧ 個人情報の取り扱いと関係機関との情報共有



あり方検討会
報告書

地域拠点を 有効に活用

摂津市民児協

摂津市では、「小地域サロン」の活動拠点づくりを計画。全部で5つある中学校区の中で、最初に誕生したのが味舌(ました)福祉委員会の活動拠点となる「デイハウスました」です。

建物の外壁に「思いやり助け合いー一人ひとり、誰もが幸せにー」という看板を掲げ、住民一人ひとりの「個」に寄り添えるような活動に取り組んでいきたいとの思いが込められています。

ここでは、高齢者向けのサロンが月4回、子育て支援のサロンが月1回行われていま



「ふれあいサロン」で昼食の調理をする民生委員とボランティアの皆さん

す。中でも毎月第3水曜日に開催される「ふれあいサロン」は、いわゆるおしゃべりサロン。10時頃から近隣の高齢者が集まり、ここで知り合った人や誘い合わせたお友達と楽しくおしゃべりをします。1時間ほど楽しんだ後は、民生委員やボランティアの皆さんが用意した昼食をとりまです。取材当日のメニューは、ちらし寿司とお吸い物。朝早くから民生委員とボランティアの皆さんが集まって調理しました、手づくりの味が振る舞われました。

「ここができる前は、狭い炊事場で大変でしたが、ここができて、すごく活動しやすくなりました。利用者の皆さんは、とっても褒め上手で、いつもおいしかったよって『頑張って下さい』と話すのは、市民



広くなった「デイハウスました」調理場で調理する様子



毎月楽しみに参加して下さる利用者の皆さん

児協副会長の小寺さん。「デイハウスました」には、広々とした調理と食事スペースがあるので、この日も5名の民生委員とボランティアの皆さんで活動を行っていました。サロンが終わった後は、反省会や次回のメニュー決めを行います。ここで一緒に活動することで、親睦も深まり、情報交換も行うことができます。

利用者の多くは、ひとり暮らしの高齢者。この日は23名の方が参加しました。

「ありがたいですね。行く所があるというのがいいんです。おしゃべりして、おいしいものをいただいで、毎回楽しみにしています」と90歳になる利用者さんも元気に話していました。

「ふれあいサロン」の参加者の多くは、他の高齢者向けサロンも積極的に利用しています。「リラックスサロン」では、保健師の指導で体操をしたり、童謡を歌ったり。「リハサロン」では、体操の指導、健康講座などが開催されます。毎回、血圧測定も行い、利用者さんの健康管理にも役買っています。

また、つい最近では、「デイハウスました」を拠点とした味舌地区の防災訓練が行われ、民生委員およびPTAによる炊き出し訓練が行われました。

「活動が多いので、大変な面もありますが、摂津市で一番最初にできた施設ですから、他の地区のお手本となるような活動をしたいと思っています」と小寺さん。「デイハウスました」を活動拠点として、地域のために、民生委員とボランティアの皆さんが協力しあって、日々頑張っています。



個人情報 取り扱いなど 整備進める 豊中市民児協連

豊中市では平成24年10月初旬から11月中旬にかけて、10月1日時点在職の全民生委員・児童委員555名を対象にアンケート調査を実施しました。

この調査は、「民生委員・児童委員の活動しやすい環境づくり」に向け、民生委員が日頃の活動の中で苦労している点や、要援護者を見守る中で工夫していることなど、活動に関しての意見や体験などの実態を把握することにも、取り扱いについて様々な見解やトラブルを生じる恐れのある個人情報の関係についてもあわせて把握することを目的にしたものです。

調査の実施主体は豊中市であり、豊中市民児協連が協力する形式で行われました。

質問項目には民生委員を受けた動機や経験年数、やりがいや苦労などについて、また他団体との協力関係につ

いても設けられ、自由記述欄には数多くの意見や行政などに対する要望が寄せられました。

アンケート結果から、「民生委員・児童委員の活動しやすい環境づくり」に向け、以下の3点をとりまとめる事ができました。

1点目は「体制の整備」です。多くの民生委員は活動にやりがいを感じているものの、活動の範囲が広く、自身の時間が取れないことが課題として挙げられました。今後、体制の整備を図ることで、活動負担を減らす方策を検討していくことが求められます。



2点目は「孤独死・孤立死への対応」です。「活動に不安を感じる」と「最も多くの回答が寄せられたのが、担当地域で「孤独死・孤立死」が起こらないか心配である、というものでした。家族形態の変容や地域でのつながりの希薄化を背景に、近年マス

「3」などで「孤独死・孤立死」が取り上げられることも多く、豊中市では生命の危険が案じられるようなSOSに近隣の方が気付いた時の連絡窓口である「安否確認ホットライン」を平成24年5月より設置し、関係各課が協力し、迅速な安否確認を実施することで民生委員の不安を軽減することに努めています。

3点目は「個人情報の取り扱いに関する環境整備」です。行政や関係機関などから必要な情報が入らず、活動を行う上で支障となっていることが課題に挙げられ、一方で名簿や福祉票などの管理についても悩みや不安が寄せられました。今後、真に必要な情報の精査や管理の

あり方、関係機関などとの共有のルールなどについて、検討していく必要があります。この結果を受け、現在豊中市では「個人情報取り扱いに関するガイドブック」の策定に向け取り組んでいます。個人情報の収集・同意や管理・提供について基本的な考え方としてまとめ、さらに実際の活動に活用できるよう民生委員からヒアリングした具体的なケース事例とその対応を掲載する予定です。



新企画

読者プレゼント

本誌では、毎号、府内にある社会福祉施設およびその事業や商品をご紹介します。より多くの方に社会福祉施設のことを知っていただき、地域との交流がさらに深まることへの願いを込めて、本誌でご紹介した社会福祉施設において制作、販売している商品等を読者の皆様に抽選でプレゼントする「読者プレゼント」企画を実施することになりました。

1

喫茶セット

新商品・Sシリーズのクッキー入り



2

梅パームセット

一層一層丁寧に焼きあげました



4

おしゃれな食器4点セット

お食事タイムが楽しくなりそうです



3

クッキー&箸置き

クッキーとフォーク型の箸置きのセットです



応募方法

右記の必要事項をもれなくご記載いただき、締切日までにFAXまたは本会ホームページの応募フォームにてご応募ください。応募にかかる費用は、応募者にてご負担願います。当選者は、次号に市町村名・イニシャルを掲載させていただきます。

応募締切 平成27年3月20日(金)午後5時必着

必要事項

①氏名(ふりがな)、②住所、③電話番号、④所属(民生委員・児童委員、関係機関職員、その他具体的に)、⑤希望する商品名、⑥当該号または本誌への意見や感想・要望等

宛先 大阪府民生委員児童委員協議会連合会事務局

[FAX]06-6762-9487

[H P] <http://www.osakafusyakyō.or.jp/minkyō/>



平成26年度 大阪府民児協連 会長管外研修 宮城県石巻市周辺を視察

平成26年6月12日、13日、府民児協連会長管外研修のため宮城県を訪れました。

今回の研修は、①平成23年3月11日の発災から3年余(研修当時)が経過するなか、復興が進まないといわれる東日本大震災の被災地に赴き、報道等の情報からは知り得ない現地の様子を実際に見聞きすることにより、大規模災害への備えや心構えなどについて改めて考える機会とすること、②大阪府や近畿地方が被災した場合を想定し、府民児協連としての災害時における要援護者支援活動のあり方等について考察・検討するための一助とすること、を目的に実施しました。

「被災地語り部ツアー」では、実際に被災された「東日本大震災を風化させない活動推進センター」所長の中井政義さんと神山日出子さんに語り部としてバスに乗車いただき、現在と被災当時の地域の様子を比較説明しながら被災地を案内していただきました。最も被害の大きかった地域の一つである石巻市門脇地区では、参加者全員で被災された方々の冥福を祈りました。

また、研修中に立ち寄った多くの施設には、被災当時と被災から数ヶ月経過した地域の様子を撮影した写真が展示されており、被災地における復興への意識と希望の強さを感じました。被災地の一日も早い復興を心からお祈りいたします。



津波は6.9メートルにまで達しました。

「語り部」の神山さんから、被災された時の様子や思いをお話いただきました。



献花台を前に黙祷する参加者



平成26年度 全民児連 会長表彰 優良民児協表彰 ～箕面市民児協～



地域で 子どもを 育てよう

箕面市民児協では、遊びを通して、地域の子どものふれあいをもとうということから「心豊かな子どもを育てる運動」を15年程実施しています。この運動の一環として、各地区で年に1～2回四季を問わず、いろいろな事業を実施しています。園児から小中学生、時には高校生や保護者、地域の人達までが一緒になって楽しんでいます。

バラエティーに 富んだ 地域の事業

保育園や幼稚園での七夕飾りやヨーヨー釣り、小学校1～2年生対象の紙芝居、人形劇。また小学生、園児が大人と一緒にベタンク、けん玉を楽しみ、ある中学校の文化祭では民生委員・児童委員のパネル展示の会場でストラップ作りをするなど、各地区で事業内容に知恵を絞っています。

多くは民生委員・児童委員、主任児童委員が中心で実施しており、児童委員としての意識も養われているように感じています。また、地区によっては、地区福祉会、老人会など他の団体と連携して実施しています。



その結果、世話をする層が厚くなって出し物も増え、地域での大人と子どもの距離感が近くなるなど、地域づくりには良い効果が出ています。

保護者との 繋がり

このような活動を通して出来るだけ多くの保護者に私達民生委員・児童委員を知って頂き、子育ての先輩として気軽に声を掛けてもらうなど、子育て中の保護者の支援に結びつくようにこれからも取り組んでいきたいです。

併せて、学校、幼稚園、保育園、そして地域で子ども達の関わり合われる方々や関係団体の皆さんに広くこの活動を知って頂き、連携を深め、民生委員・児童委員、そして主任児童委員一人ひとりが改めて、この活動が「やっぱり子育て支援に役立っている」という気持ちで今後とも継続していきたいと考えています。





民生委員・児童委員さん

●能勢町民生委員児童委員協議会●

「第17回能勢ふれあいフェスタ」を開催

「一体」となるまちづくりをテーマに、みんなが楽しく集い、ふれあい、相互理解を深める場として、「能勢ふれあいフェスタ」と「能勢町敬老会」が合同開催されました。今回は、このイベントに参加した能勢町民児協の取組みについてご紹介します。

大勢の人で賑わう
ふれあいフェスタ

大阪府の最北端に位置し、京都府と兵庫県に囲まれた能勢町は、ゆるやかな山並みを背景に、山すそに家々が集まる里山の町。秋も深まる11月9日、「第17回能勢ふれあいフェスタ」が開催されました。

この「能勢ふれあいフェスタ」は、能勢町民児協と地区福祉委員会委員長連絡協議会が主体となって行われていますが、3年前から「能勢町敬老会」も合同開催されるようになり、年々、賑わいを増しています。当日は、「金婚夫婦表彰式」や小学生を対象とした「福祉標語表彰式」といった式典をはじめ、バザー、模擬店、健康相談など様々な催しを開催。小雨の降るあいにくのお天気にもかかわらず、大勢の人々で賑わいました。



「福祉標語表彰式」で受賞された小学生の皆さん



能勢町 浄るリシアターで行われた「ふれあいフェスタ」の会場の様子

今年も民生委員が
全員参加

みんなが安心して暮らしやすいまちをつくるためには、子どもから高齢者まで、障がいの有無にかかわらず、誰もが福祉に関心を持ち、地域総ぐるみで福祉のまちづくりを進めることが重要です。

「今日は、福祉の一番大きなお祭りです。子どもから高齢者、障がいの皆さんが集まって、ふれあう、世代間交流の場です」と



能勢町民児協の岩崎昭雄会長

話すのは、能勢町民児協会長の岩崎さん。「特に今年は、民生委員・児童委員52名が全員参加で取り組んでいます。平成25年12月に一斉改選があり、半数くらいが入れ替わったので、今までは、地域福祉部会が中心となっていて行っていました。新任の方々にも、ふれあいフェスタを体験してもらおうと、今年は午前と午後に分担し、全員でこの雰囲気味わう工夫をしています」とのこと。会場では、緑色の

ジャンパー姿の民生委員が、おもちゃつきやせんざいの販売を行いました。



楽しい催しと 多彩なブースが出店

今回のふれあいフェスタ開催にあたっては、イベントの2ヶ月ほど前から準備を進めてきました。企画から会場準備、テント設置まで、全て実行委員会で行っています。主に社会福祉関係の団体で構成される実行委員会ですが、毎年参加する施設が多いので、回を重ねることに民生委員同士の意識も高まり、盛りあがりを見せているそうです。

模擬店では、カレーライス、お好み焼き、おでん、たこ焼き、フランクフルトなどの飲食店に加え、くじ引き、手づくり品、無農薬野菜の販売など、バリエーション豊かな18ブースが出店。民児協のブースでは、能勢産のもち米と古代米を30キロ用意し



11月は児童虐待防止推進月間。パンフレットとオレンジリボンのメモ帳を配布しました。



せんざいを作りましたが、午前中に完売。丸々に太った地元野菜なども午前中にはほとんどが売り切れ状態となりました。このほか、体脂肪や骨密度を測定する健康コーナー、人形劇、脳年齢チェック、パネル展示、よさこいソーラン、音楽発表、チアダンスなど、楽しい内容が盛りだくさん。子どもから高齢者まで、900名ほど集まる大盛況のイベントとなりました。





みんなで支えあうまち づくりのために

実行委員会事務局の能勢町社協東さんのお話によると、「ふれあいフェスタは『みんなで支えあうまちづくり』をテーマに開催しています。ふれあいフェスタを通じて、各施設や団体が集まることで、横の連携を強化していくという思いがあります。毎年、顔見知りも増え、ここで交流することによって、普段のつながりも密になってきました。例えば、障がい者施設等施設連絡会の作品展「示会を、ここで知り合った他の団体さんが手伝いに来たり。ふれあいフェスタ

以外のイベントでも、お互いに協力しあえるようになってきました」とのこと。

バザーの商品は、一般の方々から新聞の折込チラシなどで募集したそうで、まさに、能勢町のみんなの協力で成り立っているイベントといえます。



子育て支援にも 積極的 に取り組んでいます

能勢町民児協では、普段から、障がい者施設へ友愛訪問を行うなどの活動を行っています。地元の人同士、顔を知っているからこそ、こういうイベントの際も、とてもまとまりが良いそうです。

さらに、子育て支援にも積極的に取り組んでいます。そのひとつが、民児協・社協主催の子育てサロン「にっこにっこ」で、毎月2回、未就園の子どもと保護者を対象に、ふれあい活動を行っています。

活動内容は、四季折々の催事ができるだけ取り入れ、子どもたちにも、その行事の意味も含めて様々な体験をしてもらうこと。毎回、民生委員、主任児童委員が15名ほど集まり、おじいちゃん役、おばあちゃん役になって、子どもたちとふれあっています。

「今は核家族化が進んで、おじいちゃん、おばあちゃんと暮らしている子どもは少なくなっています。一緒に生活している子は、私たちがつくし、優しい子になる。私た

ちも子どもたちから、元気をもらえますしね」と民生委員さん。また、子育てママさん同士の交流やリフレッシュの場としても活用されているそうで、「少子化が進んでいますが、能勢で子育てをして良かったと思っしてほしいし、能勢が好きになってほしい。子どもに喜んでもらえ、母親にも良かったと思ってもらえるよう活動をしています」と話します。

能勢町民児協では、社会福祉から子育て支援まで、様々な活動を通して地域活性化に取り組んでいます。



小ホールで行われた脳年齢チェック、作品展、パネル展示にもたくさんの方が参加しました。



民児協だより



記念品のプレゼント

ある施設では、軽作業の最中でも笑顔で歓迎され、スタッフの方から「皆さん、とても頑張っています。中には数時間立って作業することもあります。黙々と取り組んでいます」と伺いました。作業をされている方に「作業は辛くはないですか」と聞くと「毎日が楽しい。少しは自分も役に立っている。働けることに感謝している」という答えが返ってきました。明るく前向きな姿勢に感心しました。

「北摂ブロック」能勢町 友愛訪問について

能勢町には、障がい者のための施設、グループホーム等が数多くあります。能勢町民児協では、障がいのある方への理解を深め、信頼関係を築くため、社協と協力して施設・グループホーム等を訪問し、障がいのある方々やスタッフと交流を図る「友愛訪問」を実施しています。

障がいのある方にとって暮らしやすい町は、誰にとっても安心できる町なのです。そんな町になるために我々民児協が努力しなければと考へさせられるとともに、心温まる1日になりました。

能勢町民児協



作業現場見学



傾聴力を身につける

交野市民児協では、民生委員としての活動に必要なスキルを高めるため、全体研修、地区会研修、部会研修等様々な研修に力を入れていきます。今回、一斉改選に合わせて

傾聴技法の研修を実施。講師は3年前にも来ていただいた広島国際大学准教授の岡本晴美さんです。今回の研修では、傾聴の技法・目的をグループ討議も交えながら学び、有意義な1日研修となりました。その中で特に印象に残ったお話を紹介します。

◎傾聴は「相手の方に元気になる」
 話を聞いても解決には至らないかもしれないが、話すことで元気になるってもらうためにその人の生活状況を具体的にイメージし、共有しながら7対3（7で情報をいただきながら3で確認する）でしつ

かり聴くことが大切。もし、相手が不適切なことを言ったために批判に近い指摘をしなければならぬ場合、相手のためになるか、元気になってもらえるかで判断する。

◎異なる見方を与える

「リフレーミング技法」

問題を抱えている人は視野が狭くなり、自分のポジティブな側面に気づく余裕はない。気づかせることができるのは私たちで、じっくり話を聴き、相手のネガティブな発言に対して、注意したり正面から向き合うのではなく、リフレーミングで（相手に異なる見方を与えて）元気になってもらうことが大切である。

交野市民児協



講師の岡本晴美さん



グループの意見を発表





ふれあいTAISHI



〔民児協だより〕

〔河南ブロック〕太子町

地域の子どもたちとのふれあいを大切に

太子町民児協では、平成22年度より町のイベント「ふれあいTAISHI」に参加しています。住民とのつながり、地域とのかかわりを目的に「昔のあそび」をテーマに竹馬・竹笛・紙おもちゃなどの製作遊びをしています。地域の子どもたちとふれあう機会を大切にしながら、楽しく取り組んでいます。

また、児童福祉部会を中心に町立幼稚園にてお茶会を実施しています。お点前をする子、そのお茶をいただく子とみんな初めての体験で興味津々の様子です。この経験が糧となり、日本の伝統文化である茶道が受け継がれていけばと感じる思いです。

その他、主任児童委員が中心となり、不登校状態にあるなど困難を抱える子どもたちを対象に、基本的な生活スキルを身につけることを目的

とした「生活体験プログラム」を実施しています。活動を通して定期的に継続する必要性を痛感し、地域では新たな団体の立ち上げを予定するなど継続的に実施できるように取り組んでいます。

今後も色々な活動を通して、地域の子どもたちとのふれあいを大切に、日々の民生委員・児童委員活動に励んでいきたいと思えます。

太子町民児協



ふれあいTAISHI



ふれあいTAISHI



町立幼稚園お茶会



焼肉パーティー



三世代ディスコン大会



〔泉州ブロック〕

岬町

地域とのつながりを実感できる
活動をめざして

岬町は、和歌山との県境に位置する大阪府の最南端の町です。海に沈む大きな夕日は、「夕日百選」にも選ばれるほど神秘的です。

私達の町には、62名の民生委員・児童委員が活動しています。ここでは、特に重きを置いている3つの活動を紹介します。

① 知的障がい者施設との交流のため、民児協主催による焼肉パーティーを年1回実施しています。その他、施設で行われる夕涼み会、運動会、餅つき大会等の行事にも参加するなど、日頃の交流も盛んです。

② 三世代グランドゴルフや三世代ディスコン大会は、民児協の大きなイベントで各地区（3校区）の小学校ごとに年1回、祖父母、父母、子ども達と三世代で構成したチームで実施しています。

③ いきいきサロンのキーパーソンとしてのお手伝い、お弁当（月2回）やおせちの配食、中学校での育児実習、献血の受付、小学生との昔遊び、中学校での挨拶運動等、保健センターや社協はもちろん、役場、各種団体からの要請



育児実習



育児実習

があれば、積極的に協力しています。

最後に、どんなに忙しくても、私達の仕事は担当地域の方々の暮らしのお手伝いです。少しでも地域のお役に立てるよう、毎日東奔西走しています。

岬町民児協

全国民生委員 児童委員大会&活動交流集会



オープニングで披露された紀州雑賀鉄砲衆・黒潮躍虎太鼓による火縄銃と和太鼓の競演

～和歌山ビッグホールで開催～

和歌山県
和歌山市

全国から3,000名を超える 民生委員・児童委員が参加

● 式典 平成26年10月23日

1日目の式典では、全民児連の堀江正俊会長から、大雨や台風、火山の噴火等の相次ぐ自然災害による被災地へのお見舞いや、発生から4年目を迎える中なお厳しい状況において活動する東日本大震災被災地の民生委員・児童委員に対する謝辞が述べられました。

また、行方不明認知症高齢者や犯罪被害を受ける子どもが増加、社会的孤立や経済的困窮等の多様化する地域の福祉課題にふれ、積極的な住民参加を得た見守りや地域のネットワーク構築による地域力向上の重要性について話しました。その中で、「民生委員・児童委員の役割は、地域住民の心のよりどころとなり、「見守り」「発見」「受け止め」必要な手立てに「つなぐ」こと。それらの期待に応えることが大切です」と述べました。

表彰式の後、「さらなる一歩を踏み出そう！」というテーマで、シンガーソングライターとして活躍する立木早絵さんによる特別講演が行われました。立木さんは、2歳の時に病気により視力を失いながらも、全盲のチャレンジャーとして津軽海峡横断リレーやトライアスロン、キリマンジャロ登頂等に挑戦した自身の経験を話しました。「『普通の人でも大変なのに、すごいね』とよく言われますが、『普通』という言葉に壁を感じます。障がい者との壁を感じていない人が多いアメリカやドイツのように、日本でも心のバリアフリーがもっと広がると思います」と結びました。

最後にピアノの弾き語りが披露され、立木さんの伴奏により参加者全員で「翼をください」を斉唱しました。

● 大会宣言 ●

- 1、支援を必要とするあらゆる人びとが孤立することのないよう、日々の見守りや相談活動に取り組み、早期に必要な支援につなぎます
- 2、住民の多様な生活課題に対応するため、地域の幅広い関係者との連携とともに、住民同士のつながりを強め、支えあい、助けあうことができるまちづくりをすすめます
- 3、虐待やいじめ、犯罪被害、貧困の連鎖などから子どもたちを守り、その健全な成長を支えるための「わがまちならでは」の取り組みをすすめます
- 4、東日本大震災をはじめとする被災地の人びとやそこで活動する民生委員・児童委員への支援とともに、災害に備えるための地域での取り組みをすすめます
- 5、基本的な人権についての理解を深めるとともに、個人情報取扱いなどに常に留意し、住民や関係機関・団体との信頼関係に基づく活動をすすめます
- 6、民生委員・児童委員がその力を発揮できるよう、活動しやすい環境づくりのため、市区町村、都道府県指定都市、全国の各段階における取り組みを二層すすめます

● 活動交流集会 平成26年10月24日

2日目はそれぞれの会場に分かれ、10の活動交流集会在が開催されました。

活動交流集会7では、「課題を抱える親子への相談支援活動の推進」と題し、大阪府からは東大阪市東地区民児協の三浪敏嗣会長が、虐待の予防、早期発見に向けた関係機関等と連携した乳幼児健診の未受診世帯等への訪問活動や相談支援の取り組みについての事例を発表しました。

コーディネーターの和歌山県立医科大学柳川敏彦教授からは、児童虐待問題をめぐる動向やその背景、虐待の予防や早期発見、早期対応の各段階における民生委員・児童委員の役割や関係機関との連携のあり方、被虐待児と保護者との再び同じ家庭で生活できるよう関係機関および民生委員・児童委員が支援することの重要性について講義がありました。

パネルディスカッションを通じて、地域づくりの重要性について理解を深め、民生委員・児童委員および民児協の役割について考えました。



事例を発表する三浪会長

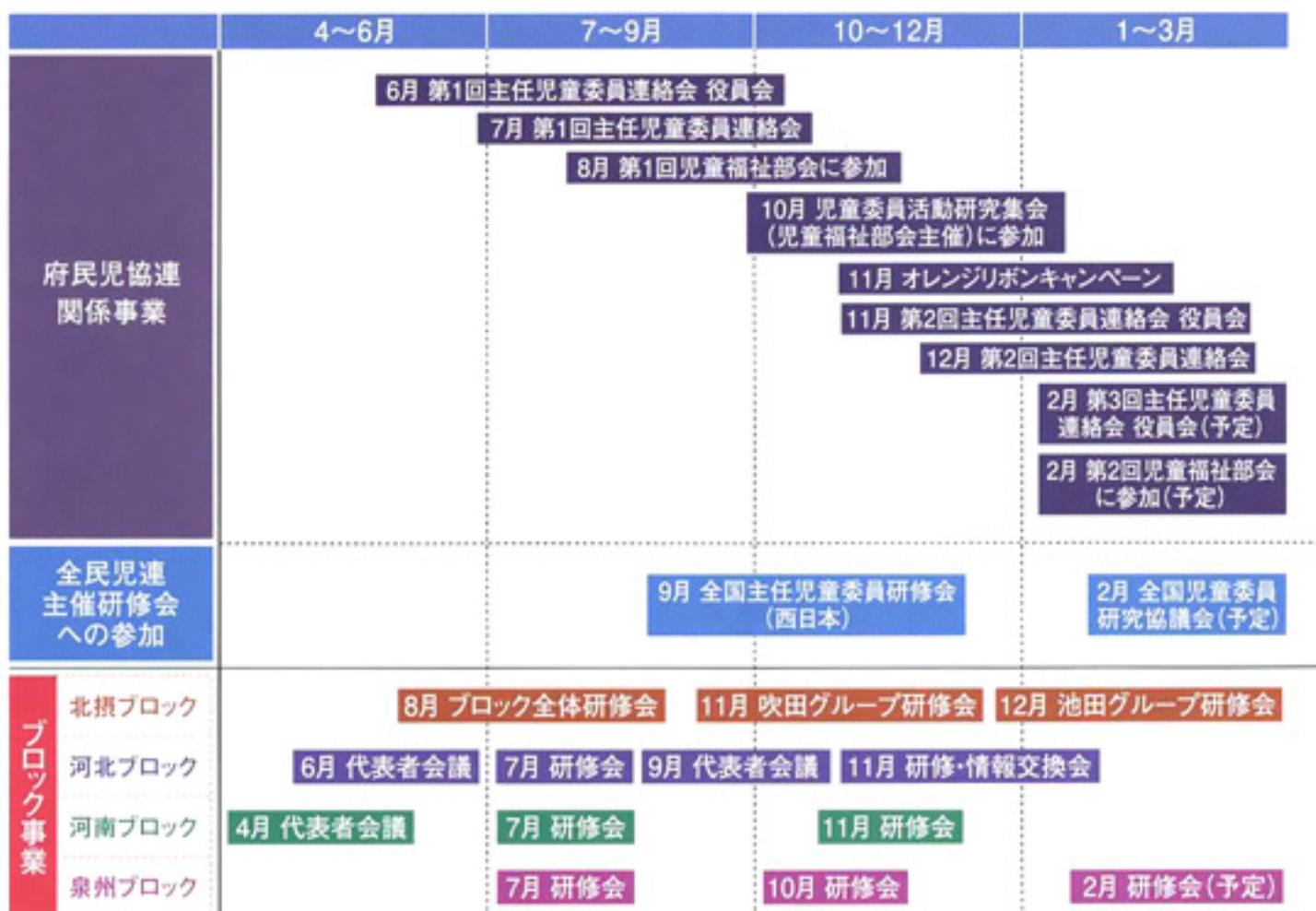
主任児童委員連絡会 平成26年度 事業報告

本年度、府民児協連 主任児童委員連絡会では、ブロックの代表者が集まり情報交換を行うなど、顔の見える関係作りを進めました。ブロックごとに実施した研修会や交流会には多くの主任児童委員が参加し、学びや親睦を深めました(下表)。ブロック別研修会には、民児協会長にも多数参加いただき、今後の主任児童委員と民生委員・児童委員との連携強化に期待が高まります。

また、府民児協連 児童福祉部会主催の児童委員活動研究集会には母子・父子自立支援員等を、第2回主任児童委員連絡会には子ども家庭センター職員を講師に招き、子どもの貧困の実態やひとり親家庭への支援、個別援助活動について学ぶとともに、関係機関や児童委員および主任児童委員の役割について考えました。

次年度も、府内の児童福祉推進に向け、主任児童委員の資質向上および活動しやすい環境づくり、関係機関とのさらなる連携を目指し、取り組んでいきます。

■平成26年度の実施内容



表紙の商品と作業所の紹介

●社会福祉法人 ふたかみ福祉会●

はびきの園のみなさん

羽曳野市

はびきの園は、ハンディキャップがあっても、毎日、生き生きと働ける場をという思いで開設された通所施設です。作業所の名前は通称「アトリエ・ハビパール」。モノづくりを通してみんなが「ハッピー」になるように。それに羽曳野の「ハビ」、イタリア語の地域に親しまれているお店「パール」をかけ、地域に愛される存在になるようにとの願いを込めて、3年ほど前にブランドを立ち上げました。

ハビパール的主力商品は手作りクッキー。製菓職人さんが常駐しているので、手作りですが、味は本格派です。やさしい甘さが人気で、味も13種類と豊富。お客様からの注文が多く、1日に100～200袋、多い時で400袋作ることもあるそうです。

取材当日も、甘い香りに包まれた作業室で、スタッフと利用者さんが忙しそうにクッキーの袋詰めを行っていました。



クッキーを丸めたり、袋詰めをしたり、自分でできる作業を手分けして行っています。



利用者さんが日々描く、伸びやかなペインティングも人気です。

このほか、本格的なバウムクーヘンやパウンドケーキ、ジャムなども作っています。

一方、アトリエでは、陶芸やペインティングなど、様々な創作活動が行われています。マグカップやお皿の絵付けも全て利用者さんの作品。手描きなので、同じ絵柄でも微妙にタッチが変わりますが、これがいい味わいに。こちらの作品は、プロの手作り作家さんも出店する地元の「手づくり市」などで販売。小さいお子さんのいる若いお母さん方などに評判が良く、よく売れるそうです。

「お客さんに喜んでもらったり、目の前で自分たちが作ったものが売れていくのはすごく嬉しいこと。利用者さんも、また頑張ろうという気持ちになるので、本当にありがたいです」と管理者の楠尾薫さん。「今は、地元のカフェで委託販売したり、福祉のバザーや手づくり市などが主な出店先ですが、みんないいものを作れるようになってきたので、もっと販路を広げるのが私たちの課題です」と話します。カフェを備えたショップ建設の計画もあるそうで、これからの皆さんの活躍がますます期待されます。



新製品の開発にも積極的に取り組み、冬は季節限定品も。

お問い合わせ先

〒583-0841
羽曳野市駒ヶ谷106番地1
TEL.072-957-4041
FAX.072-957-2215



編集後記

今号から「読者プレゼント」企画を実施することになりました(p.4)。本誌に関するご意見やご感想を添えて応募いただいた方の中から、抽選ではびきの園さんで制作されている素敵な商品をプレゼントします。たくさんのご応募をお待ちしています!

Well ウエル おおさか

vol.32
(通巻66号)



この冊子は再生紙を使用しています。

発行日:平成27年2月

発行:大阪府民生委員児童委員協議会連合会

事務局:大阪市中央区中寺1-1-54 大阪府社会福祉協議会内

TEL.06-6762-9486 FAX.06-6762-9487

URL <http://www.osakafusyakyoo.or.jp/minkyoo/>



QRコードから
簡単アクセス